
おはなしでもしましょうか

本宮蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おはなしでもしましょうか

【Nコード】

N4759U

【作者名】

本宮蒼

【あらすじ】

古い小学校の思い出話

あらあら、どちら様かしら。こんな夜にお客様なんて珍しい。昼間ならたまにいらつしやる方もいるのですけれど。でも、その方たちとは、私^{わたくし}お話しする機会がございませんのよ。そもそもこちらまでいらつしやいませんし。主人とお客様は違う場所でお会いしてますから。

なんてね。本当はあなた方、主人に会いにいらしたわけではないのでしょうか？それどころか、ここにいらつしやるのに主人の許可を取ってすらいらない。有体にいうのなら、不法侵入者といったところでしょうか。いえいえ、悪気がないのはわかっておりますのよ。ここは昔からそういう話がよくきかれましたから。でもですね、許可なく建物に侵入なんて、例え空き家でもしてはいけませんのよ。立派な犯罪なんですから。ましてや、ここはきちんと主人が借りてる場所ですし。

まあ、今回だけは目に見ましよう。でも二度としてはいけませんよ。

あら、もうお帰りになりますの？そんなに慌てずとも、もつとゆつくりされては。

ああ、そうですね。私に見咎められたんですもの、ここには居づらいですよ。でも大丈夫ですよ、私、主人に告げ口する気はありませんから。それに実はね、私、あなた方にお会いできたのを大変嬉しく思っておりますのよ。さきほど申し上げましたが、私のところにはお客様はおいでになりませんし、ずっと一人で寂しい時間をもて余す日々を送っておりますの。つまりあなた方は私にとつては、本当に久方ぶりのお客様ということになりますの。だからどうか、しばらく私に付き合ってくださいませんか？とは申しまして、あいにく茶葉を切らしておりますて、お菓子もございませんので、何のおもてなしもできないのですけれど。

さて、ではどういたしましょうか。ああ、そう、まずはあなた方の事を……って、そうですね。遊びにいらただけですものね。それはわかります。でも、懐中電灯の明りを片手に暗い廊下を歩いているなんて、泥棒と間違えられて通報されてもおかしくない姿ですよ。まったく、近頃の若い者は……、ほほ、お恥ずかしい、これではただの愚痴っぽい年寄りですわね。全く、自分自身は若いつもりでも、この身に積もる歳月は誤魔化せませんわ。あらあら、そんな呆れた顔はなさらないでほしいものです。良いですか？自分はそうならないつもりでも、気がつけばすっかり若い者を妬んだり疎んだりしている。それが歳をとるということですよ。

いけない、ただの年寄りの説教になってしまいましたわね。ではどうしましょうか。

そうですね、この建物の思い出話でもしましょうか。あなた方も折角いらしたんですもの、少なからず興味はおありでしょう？

それでは、お話ししましょうか。といっても、残念ながらあなた方にとって楽しいお話など一つもございませんが。

どうせ、何かいろいろな噂話を耳にされたんでしょう。その話を耳にされた方が昔からよくこちらにいらっしゃいましたから、わかりますわ。だからあなた方の来訪の目的もすぐに検討がつかまりました。

でもですね、残念ながら、それは全部噂にしか過ぎないんですよ。過去の話も現代の話もね。

あなた方もご存知の通り、ここは昔小学校でした。昔の小学校としてはありきたりな、木造の二階建て。今は美術をやっている方がアトリ工代わりに借り上げて改装して使っておりますけれど、一部は昔のまま残っております。たとえば、今皆様がいらっしゃるこの廊下。ここは職員室前なのですけれどね、ここは全く昔のままなんです。ほら、あのドアの上のプレート、『職員室』の文字がそのまま残っておりますでしょう？それに、こちらの壁にかかっております絵はね、この小学校を卒業された方が、後にプロの画家になって、

学校に寄贈されたものなのです。もつとも、プロと申しましてあまり人気が出ず、鳴かず飛ばずで終わってしまったようですが。画家が高名とはいいたかったからでしょうか、この絵は廃校になった際そのままにされてしまいました。修復も何もされず放置されてしまったせいか、絵の具が剥落したりしてだいぶ傷んでおりますが、一応どんな絵かわかるだけ、まだ状態が良い方だと思うべきでしょう。ちなみに、この絵のモデルは娘さんだそうです。娘さんをモデルにした絵を自分の母校に寄贈するなんて、けっこうな親馬鹿ですね。

あら失礼、余計なお話でした。それよりも今はこの学校の話をしなれば。

この学校はね、廃校になってかなりの時が経った今はとても信じられないでしょうけれど、昔は子供がたくさん通っていたんです。

ええ、あの頃は本当に賑やかで。どこにありましたも子供達の笑い声や泣き声、それに先生が一緒に笑う声や子供達を叱る声がそこここに響いておりました、それはそれは、ただ居るだけでも楽しい日々でした。もちろん、子供達はやがてここから巣立ってしまうわけですが、それでもまた次から次へと新しい子供がやってきましてね。目に見えて子供の数が増えることも減ることもなく、こんな楽しい日々がずっとずっと続くものとあの頃は信じて疑うこともありませんでした。でも、時の流れというものは無常であり、ずっと続くものなどありません。皆様もご存知の通り、ここは町の中心から離れた場所にあります。その上、この町自体が栄えてるとは言いがたい。住人もだんだん年をとり、若い者はみんなもつと明るくきらびやかな都会を目指してここから去っていきます。気がつけば、児童の数は町の私塾にも劣る程度になっておりました。これはここだけの話ではなく、町の近隣の学校全てが似たような状況になってしまったらしく、それなら子供達を一箇所にまとめた方が良くという話になってしまったそうなんです。そして、町の中心にもつと近い場所に、コンクリート製の立派な小学校が作られ、子供達はみんな

ここに通う事になってしまいました。そして、ここは廃校になってしまったのです。

廃校になった後は、たまに近隣住民の集会に使われたりもしましたけれど、集まるなら別にもつと良い寄り合い所がありましたからね、あまり利用価値があるとはいえず、結局放置されました。いっそ取り壊そうにも、それではかえってお金がかかるということで、なかなかその話も進まず、寂しくただの廃屋として取り残されることになりました。

こうやって皆様に忘れ去られ、あとはみすばらしく朽ちるばかりかと無念に思っておりまして、他所よそからいらした彫刻家の方が、ここを使用したいと仰ってくださいたんです。昔ながらの木造二階建ての風情と、あとほとんどタダ同然の家賃に魅力を感じたそうですわ。それが今のここの主人です。主人は本当にこの建物をいたく気に入ってくださいたようでした。ただ、中をご覧になった時は、備品どころか子供達の作った壁飾りなどの工作までそのまま放置されてましたから、少々唖然とされておりましたけれど。当時の子供達に返そうにも、廃校になったのがもうかれこれ四十年は前でしたからね、名前が無いのもありましたし、返すのは諦めたようです。その後、校舎をご自分の好みにあうように改装されましたが、全部はせず、一部はそのまま手付かずにしました。お金がかかるというのが大きいようでしたが、せっかく元学校だったのですから、学校らしい場所、そして当時の雰囲気や空気を残すような場所もあった方がおもしろい、という考えもあったようです。

それが、例えばこの職員室前なのです。破れたガラス窓はさすがに防犯上の理由から直しましたが、それ以外は全く元のまま。壁や床の汚れやしみ、かかっているポスターやこの絵とか、全部そのままです。そうそう、床も本当にそのままですから、一部腐っているところもありますの。歩く時には注意してくださいね。……あら、もうすでに踏み抜いてましたか。お怪我は？……そうですか。修繕費を要求したいところですが、残念ながら私に払われても困り

ますしね。本当に悪いと思ってましたら、明日改めて主人に謝罪と修繕費の相談をしていただけると助かります。そして、二度と同じような事はしない、今度からは建物に入る時はきちんと建物の持ち主に許可をとる。主人がわからなかったり、許可が取れなかった場合は諦める。許可が出ました時も、建物を破壊しない、大騒ぎをしない、ゴミが出たら持ち帰る。別にここに限った事ではありません。どこに行くにしても、最低限やらなければならない事です。あなた方はこういう場所に来るのが好きなようですけど、守れますか？
そうですか、良かった。

……ところで、さきほどから、何か言いたそうに絵をご覧になってますが、どうされました？ああ、そこに描かれている椅子ですか。売れない画家だったそうですが、画面には立派な椅子が描かれていますよね。ビロード張りの安楽椅子とは。そこに娘さんをモデルにした少女を座らせるとは。現実では大層な貧乏だったようですから、せめてもの見栄だったのか。描かれた少女もシルクのブラウスを着せられたりして、いかにも育ちの良いお嬢様のよう。実際はすべて画家の妄想の産物だったようですけれど。

ようだようだと伝聞のような事しか申せませんが、事実は本人たち以外には誰にもわからないんです、結局のところ。すべてはおよそ半世紀も前の事です。その画家もモデルとなった娘さんも今はどこでどうしておられるのやら。生きてるか死んでいるかもわからないくらい。それでも、傷みに傷んでいるとはいえ、画家の絵は今もここにこうして残っている。考えれば不思議なものですわ。ああ、でもあなた方が知りたいのはそういう事ではありませんよね。先ほだから、これは少女像だと説明してますのに、実際には椅子以外見当たらないのが気になっておいでなのでしょう？

本当は不思議な事など何もないのですけれどね、だって、その少女は今あなたの方の目の前にいるのですから、だから絵の中にはいない。

ね、いたって普通の事でしょう？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4759u/>

おはなしでもしましょうか

2011年7月1日03時25分発行